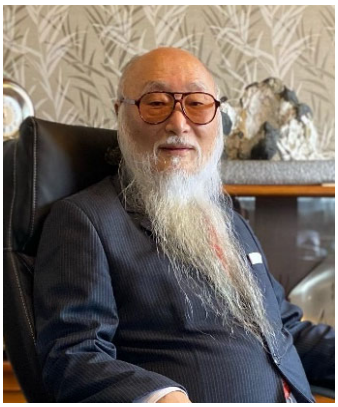
ISLIS 第 63 回 生命情報科学シンポジウム 講演・発表等 一部要旨一覧草案

山本幹男 2026. 10. 2 版

開催日: 2027 年 3 月 12-14 日(金-日) **募集中：演題・企画・大会長・参加者** 下記 山本幹男へ
開催地: **未定： 総武線** 快速停車(東京駅から 34 分) **稲毛駅 近辺 または 東京駅近辺**
主催: 国際生命情報科学会（***ISLIS***,イスリス)
共催: 科学平和文化財団(***SPC-F***,スプク), 同 国際総合研究機構(愛理 ***IRI***)
問合わせ・申込: ***ISLIS*** **理事長 山本幹男** archyamamoto21@gmail.com 090-9232-9542

〈理事長講演〉 2026/10/2 修正版

人財と連携の結集を，ホリスティック医学・不思議の科学の拠点，国際生命情報科学会(*ISLIS*)・国際総合研究機構(愛理 *IRI*)・世界一の「潜在能力科学研究所」・「いやしのビル」 への



山本 幹男 *博士(医学), 博士(工学)*
(Mikio YAMAMOTO, *Ph.D., Ph.D.*)
*国際生命情報科学会(**ISLIS**) 理事長・編集委員長*
*科学平和文化財団(**SPC-F**) 理事長, 同 国際総合研究機構(**愛理 IRI**) 理事長,*
同「潜在能力科学研究所」所長, 同「いやしのビル」企画委員長 (日本, 千葉)

要旨: 当 国際生命情報科学会(***ISLIS***)は**創立 25 周年記念行事**として「ホリスティック(全人的)医学と不思議の科学」を主テーマとする「生命情報科学シンポジウム」を，昨 **2025 年** 3 月に**第 59 回**を,8 月に合宿形式にて**第 60 回**を，**2026 年**にも,上記主テーマにて同シンポジウムを 2 回,**第 61 回は 3 月 14-15 日(土-日)にビジョンセンター 有楽町**にて**帯津良一 前会長**大会長で，**第 62 回**は **9 月 4-7 日(金-月)に合宿形式**で横浜市の**上郷森の家**にて**帯津良一 会長**(再任)の基,**山本幹男 理事長**が大会長で，大変有意義に,皆様と共催者の協力で,主催した.

2027 年にも，同主テーマにて**第 63 回**を **3 月 12-14 日(金-日)**に総武線稲毛駅徒歩近くに今取り組んでいる**自前の会場創り**が間に合えば,そこで**お披露目を兼ね**て,**第 64 回**は **9 月 3-6 日(金-月)**に**合宿形式**で,主催予定. 大会長・演題・企画・参加者を募集中. これらに多くの方の講演・発表・セミナー・分科会・ミニシンポ・ワークショップ・実技披露指導等の応募と参加を望む. 上記と下記の開催は, 科学平和文化財団(***SPC-F***) 国際総合研究機構(愛理 ***IRI***)の助成金やそのスタッフの全面協力により可能となっており, ***ISLIS*** として深く感謝する.

ISLIS 共催にて，***IRI-College*** のＥ口座「**脳を知ろう!**」を**河野貴美子 副学長**(前 ***ISLIS*** 会長)が **154 回**を超えほぼ毎月粘り強く都心にて開催中, また 2025 年 7 月から**気楽な討論の場**として ***Sympo Café*** や ***Salon de 愛理 IRI*** 等を千葉市稲毛駅近辺にて毎月のように開催中. 上記の**今後のイベント日程も Web に**掲載中.

ISLIS の兄弟組織で 25 年近くこの分野の幾多の研究成果等を挙げてきた国際総合研究機構(***NPO-IRI***)は 2026 年 6 月の会員総会にて全会一致で解散した。その活動を ***SPC-F*** 傘下の同名の愛理 ***IRI*** が継承し ***ISLIS*** と連携し今後大規模に展開する。愛理 ***IRI***-「潜在能力科学研究所」を**世界一**とし, 大型「いやしのビル」を建設し,「ホリスティック(全人的)医学・不思議の科学」を含むこの分野の**世界一の拠点**に育てたい. **企画, 構想, 連携**や**多数の有能な人財採用を公募中**で, 良い研究者や多方面の人材の推薦等で皆様のご協力を得たい. このために現本部および総武線「稲毛」駅周辺に数カ所のスペースを借増し, プラザ・クリニック等をパイロット的に開設したく, また本目的の超大型ビル・大型ビル数棟の建設企画設計もまとまった.

こころが綺麗で有能な各種人財の結集を望んでおり, 自薦・他薦を期待している. また, 大学等や他の研究機関等との連携を模索しつつある.

ISLIS の設立趣意は, 物質中心の科学技術から, こころや精神を含んだ 21 世紀の科学技術へのパラダイム・シフト（枠組革新）を通じ, 真理の追究と共に, 人間の「**潜在能力**」の開花により, 健康, 福祉, 教育と社会および個人の幸福や心の豊かさを大きく増進させ, 自然と調和した平和で幸福な世界創りに寄与する事である.

ISLISは1995年の創立来31年間, 現在の科学知識の延長で説明が出来そうも無い不思議なこころや精神を含んだスピリチュアル・ヒーリング, 気功, 潜在能力, 超心理現象などの存在の科学的実証とその原理の解明を追求して来た. この間に生命情報科学シンポジウムを, 海外での開催や18回の合宿形式を含め62回主催した. 英文と和訳付の国際学会誌***Journal of International Society of Life Information Science*** (*J.Intl.Soc.Life Info.Sci.* or ***Journal of ISLIS***)を年2号刊行, 総計7, 000頁以上の学術論文と発表を掲載してき, 現在Web誌化中.

この間に, 不思議現象の存在の科学的実証には多くの成果を挙げた. しかし, その原理の解明は世界的にもほとんど進んでいない. 今後共, これに大いに挑戦したい.

本学会は現在, 世界の11カ所に情報センターを, 15ヵ国以上に会員を, 擁している.

キーワード: ホリスティック医学, 国際生命情報科学会, *ISLIS*, イスリス, 生命情報科学, 潜在能力科学, 国際総合研究機構, 愛理 *IRI*, アイリ, 科学平和文化財団, *SPC-F*, 科学, 精神, 脳, 心身, 代替医療, CAM, 統合医療, IM, 予防医学, 未病, 精神神経免疫, スピリチュアル, ヒーリング, 気功, ヨーガ, 瞑想, 潜在能力, 催眠, 心, 不思議, パラダイムシフト, 世界像, 世界観, 超常現象, 超心理, 超能力, UFO, UMA, 理想主義, 現実主義, 平和, 幸福

mikio-yamamoto@iri-g.org Fax 043-255-9143 090-9232-9542 〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台2-13-31 Peace

以下は、前回のまま、 新原稿が届き次第 今後更新します

<会長講演>

自然治癒力に思いを致そう

帯津 良一 *医学博士,医師*
(Ryoichi Obitsu *Ph.D., M.D.*)

国際生命情報科学会（ISLIS）会長
*科学平和文化財団(**SPC-F**) 国際総合研究機構(**愛理 IRI**) 顧問*
日本ホリスティック医学協会 名誉会長
帯津三敬病院 名誉院長（日本,埼玉）

要旨： 治るための主力は自然治癒力である。そしてその端緒を開いたのは古代ギリシャの医聖ヒポクラテス（前 460 頃～全 375 頃）である。それまでのシャーマンの医学に代わって経験医学を打ち立てた彼は、その治癒力の根元として体内にある「Nature」を提唱したのである。自然治癒力とは Vis medicatrix naturae と言う。これはラテン語だからローマ時代である。ガレノスが絡んでいだのか？

いずれにしても西洋医学とともに歴史を刻んだ自然治癒力も 1628 年ウィリアム・ハーヴェイの『血液循環の原理』によって、一旦はその存在が否定されるが、1881 年 1 月 29 日のビルロートの胃切除術の成功によって復活する。爾来、外科学の進歩は自然治癒力によって支えられて来た。自然治癒力の解明によって医学が飛躍的に進歩する日も間近いのではないだろうか。考えだけで、うれしくなって来る。

キーワード：自然治癒力，ポクラテス，ビルロート，胃切除術，外科学

帯津 良一 医療法人直心会 帯津三敬病院 名誉理事長 〒350-0021 埼玉県川越市大字大中居 545 番 Tel: 049-235-1981

<副会長講演>

音と脳,そして脳波-2

河野 貴美子 *博士(工学)*
(Kimiko Kawano, *Ph.D.*)

***国際生命情報科学会（ISLIS）副会長**(前会長)*
*科学平和文化財団(**SPC-F**) 国際総合研究機構(**愛理 IRI**) 副理事長*
IRI-College 副学長, IRI-生体計測研究所 所長 (日本,千葉)

要旨:様々な音の情報を脳はどのように処理しているのだろうか,通常,言語は左脳の機能,音楽は右脳と言われているが,そもそも音楽とは脳にとってどのような存在なのか.心地よい音とは,何なのか.今まで様々な種類の音刺激と脳の反応を脳波により調べてきた.脳波は一般的に心地よければα波というように思われているが,その出現量など詳しく調べることにより単にリラックスや集中のみでない様々な情報を得ることができる.またリラクゼーションを重視する側からは少ない方が良いようにいわれるβ波も詳しく解析することにより,被験者の細かい変化情報を知ることができる.さらには誘発脳波による検討など,音をめぐる様々な計測結果から脳にとって心地よさとは？音楽とは？など探ってみたい.

キーワード:**α波,θ波,β波,高周波,リラックス,右脳,左脳**

著者連絡先:263-0051 千葉市稲毛区園生町 1108-2 ユウキビル 40A 電話 043-255-5481 電子メール:kawano@a-iri.org

＜特別講演＞

遺族の死別悲嘆のコストとその対策

ベッカー カール *文学博士*
（Becker Carl, *Ph.D.*）

国際生命情報科学会（ISLIS）理事
科学平和文化財団（SPC-F）国際総合研究機構（愛理 IRI）顧問
京都大学 iPS 細胞研究所 上廣倫理研究部門 研究員
京都大学 名誉教授 （日本,京都）

要旨：日本における死別悲嘆は看過できない問題となっている。高齢化の進展に伴い、今後さらに死別を経験する人々は増加する。遺族の心理的支援を十分に行わない場合、結果として医療・福祉の依存が拡大し、国全体の負担が増大する。つまり悲嘆を個人の私的領域に限定せず、社会的課題として位置づけ、予防的介入を含めた包括的対策が求められる。日本の葬送儀礼は、死別悲嘆を緩和するための文化的知恵として機能してきた。例えば、初七日、四十九日、百日、年忌法要といった一連の追善儀礼は、遺族に悲嘆を整理する時間を与えるとともに、共同体内での社会的支援を促進する役割を担ってきた。伝統的な解釈では、これらの法要を怠ると、怨霊に祟り、病気や災厄をもたらすと信じられてきた。現代の医学的観点からみれば祟りは迷信であるが、悲嘆を抱えたまま放置されれば、うつ病から身体的疾患までのリスクが高まることは科学的に示されている。従って宗教的儀礼は単なる迷信ではなく、心理的ケアや共同体の維持機能を果たしてきたと評価できる。全国調査に見る死別悲嘆の危険とコストを含む大型科研研究の結果を紹介し、含意される政策まで紹介したい。

キーワード:公衆衛生，医療，福祉，葬送儀礼，供養，法事，がん宣告，自殺

ベッカー・カール 京都大学 iPS 細胞研究所 上廣倫理研究部門 研究員・京都大学名誉教授
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53 第 1 研究棟 413 号

＜研究発表＞

医療 AI の危険と倫理

ベッカー カール *哲学博士*
（Becker Carl, *Ph.D.*）

京都大学 iPS 細胞研究所 上廣倫理研究部門 研究員
京都大学 名誉教授 （日本,京都）
国際生命情報科学会（ISLIS）理事
科学平和文化財団（SPC-F）国際総合研究機構（愛理 IRI）顧問*（日本,千葉）*

要旨：本発表は、AI の広範かつ急速な普及に伴う一連の倫理的懸念と、それが人々の健康に及ぼす影響について紹介するものである。即ち（1）全ての AI が本質的に孕む危険性について説明し、次いで（2）人々の健康に影響を与える企業および政府による AI の活用に焦点を当てる。続いて（3）患者による AI 利用が彼らの健康に与えてきた影響、（4）書類作成等の「受動的」医療 AI、および（5）診断・処方等の「能動的」医療 AI が、人々の健康をどのように脅かしているかについて概観する。結論として（6）書類作成や責任の所在、規制に関する考察等を述べ、公衆衛生目的における AI の有益な活用のために、国際協力とガバナンス体制の構築の必要性を論じる。

キーワード: 人工知能；環境破壊；心理診断；AI 規制；倫理的責任

ベッカー・カール 京都大学 iPS 細胞研究所 上廣倫理研究部門 研究員・京都大学名誉教授
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53 第 1 研究棟 413 号

＜教育講演＞

からだから脳を強化する方策

坪井　宏仁　博士（医学）、医師
(TSUBOI, Hirohito Ph.D., M.D.)
金沢大学医学類 衛生学公衆衛生学研究室（日本, 石川）

要旨： 脳から末梢へのシグナル経路（遠心性）は、SAM 経路（Sympathetic-Adrenal Medullary pathway）および HPA 軸（Hypothalamic-Pituitary-Adrenal axis）が解明されてから久しい。すなわち、精神的ストレスが、交感神経系や内分泌系を通して、血圧上昇や免疫低下などに影響する経路である。一方、末梢から脳へのシグナル経路（求心性）には、未解明な部分が多い。BBB（Blood-Brain Barrier, 血液-脳関門）の存在が 1 つの原因であろう。

脳を健全に保つため、脳をより強化するために、末梢からアプローチできれば、直接アプローチする療法を強化できるかもしれない。また、日常生活において、脳を健康に保つことに有用かもしれない。

ここでは、酸化・慢性炎症（Low-grade Systemic Inflammation）・糖化を指標に、良好な求心性シグナルに繋がるデータと具体例を挙げ、日常生活での脳強化の方策を提案する。

キーワード：慢性炎症、糖化、酸化、血液-脳関門、うつ、幸福感

連絡先　email: tohtori17@gmail.com

＜研究発表＞

密教と医学の接点

坪井　宏仁　博士（医学）、医師
(TSUBOI, Hirohito Ph.D., M.D.)
金沢大学医学類 衛生学公衆衛生学研究室（日本, 石川）

要旨：神智学は、チベット密教の影響を受け、19 世紀に新たな神話を作り出した。概論すれば、「世界の宗教および科学をミックスして、宇宙の究極の真理を探す」という運動である。その系譜で、アリス・A・ベイリーやチャールズ・W・リードビーターは、それぞれ著書『秘教治療』、『チャクラ』の中で、チャクラと内分泌腺の関連性について述べている。これらの関係については、オカルト的な色彩は徐々に薄れ、現在では、脳科学、心理学、予防医学（マインドフルネスなど）に取り入れられ、エビデンスとともに実学的な応用に発展している。たとえば、瞑想によりメラトニンやセロトニン、オキシトシン（近年では、いわゆる愛情ホルモンとして認知されている）などの分泌が促される等である。これらは、健康科学や、がん患者のメンタルケア、慢性疼痛の緩和に効果を上げている。しかしながら、チャクラそのものについては、未解明な部分が多い。

一方、マントラ（真言）については、「心地よい」と感じる音の波動が、バランスの取れた対称性の高い美しいデザインを作るというクラドニ図形やサイマティクスがヒントになるが、マントラの音や、マントラの元来の意味、マントラの訛り（サンスクリット語→唐語→日本語）とその効果については、議論されていない。

これら、未解明な面と、その解明について意見交換をしたい。

キーワード：チャクラ、内分泌腺、神智学、マントラ、音

連絡先　email: tohtori17@gmail.com

＜講演＞

量子医療の展望とその可能性：
心の波動（愛と無限）を実証するスカラー変調インフラの具現化

赤堀　道也　博士（医学）、医師

(AKAHORI, Michiya Ph.D., M.D.)

量子医学研究所太子橋クリニック(Phoenix Tesla)所長　（大阪、日本）

要旨： 現代の主流医学および閉回路電気工学の檻（既成概念）は、生体が内包する潜在的な微弱エネルギーや、気功・ヒーリング等の施術効果を「非科学的」として排除してきた 。本講演では、これら非医療の範疇に属する高潔な治療従事者たちの臨床実践に対し、量子力学および固体物理学の観点から冷徹かつ強固な科学的根拠（ロゴス）を発給し、100%安全である確証の根拠を提示しながら、患者さんの未来に向けた絶対のエールを提示する。

1．量子エンタングルメントの検証と松果体の役割：劇的な治療効果（一瞬での睡眠作用、踊る動態、劇的自然治癒力）の本質は、共振・共鳴・外的光子エネルギー刺激（赤外線、X 線、重量子線、紫外線療法等すべてを含む）を媒介とした「量子エンタングルメント（量子もつれ）」の自発的相転移にある。この時空を超えた位相同期において、生体の受光核である「松果体」が極めて巨大な中継役割を担っている。

2．細胞内結合水と30兆個のミトコンドリア光電効果：生命の設計図（DNA・RNA）を死守するためには、細胞内「結合水」の構造化、および30兆個の「ミトコンドリア光電効果」による膜電位（位置エネルギー）を、摩擦抵抗のないコヒーレントな状態に定常安定させることが必須である。

3．個人用周波数設定と固有周波数の臨床原拠：生体の最適なインピーダンス整合を達成するための周波数決定は、各個人によって異なる「個人用設定（テーラーメイド調律）」が不可欠である。UCLA 大学における植物実験が実証する通り、環境波と生体の調和は生死を分ける。すでに大学等の公的研究において、特定の固有周波数が癌治癒効果を有していることが学術報告されており、確証ある周波数動態の臨床応用が示された。

4．ゼロ磁場真空（0 テスラ空間）の大解明と自然治癒力（シューマン共振）の回帰：環境電磁波雑音（人工 Hz ノイズ）は人体へ深刻な悪影響を与え、無限の光子はこれら雑音により瞬時に消滅させられてしまう。量子医療の効果を最大化させるためには、人工電磁場を極限までゼロに減衰させた「電磁場 0 の磁気真空空間」を意識・構築することが絶対の前提である。自然治癒力を極大化するためには、地球の一次固有振動である「シューマン周波数」との位相同期、および自然の光を松果体に取り込むライフスタイルの調律が最重要の真芯となる。

キーワード：量子医療、心の波動、量子もつれ、松果体、ミトコンドリア膜電位、結合水、個人用周波数設定、0 磁場空間、シューマン周波数

連絡先　email: info@taishibashi.com

＜研究発表＞

環境電磁雑音遮蔽下における空間量子力学パラメータの時空間的動態分析：反転ダブル磁気リング　および水晶コイルコアによる空間光電効果と直流超流動の検証点

赤堀　道也　博士（医学）、医師

(AKAHORI, Michiya Ph.D., M.D.)

量子医学研究所太子橋クリニック(Phoenix Tesla)所長　（大阪、日本）

要旨：本研究は、局所的に具現化されたゼロ磁場真空空間内における空間量子力学パラメータの時空間的動態を分析したものである。環境電磁波雑音およびマクロな地磁気波ベクトルを排除するため、幾何学

的黄金比（1:1.618）より厳密に数理計算された異方性カウンター双方向反転磁気ダブルリングトポロジーを構築した。高コヒーレント受信体として、線径 0.14 mm のポリウレタン銅線を質量 243.6 g のブラジル産天然水晶六角柱コアの幾何学的中心（物理重心点）へと精密に右巻き多層密巻きし、12 時の位置（磁性結晶軸ベクトル）において平行に位相同期させて固定を敢行した。天体潮汐および地磁気ベクトル勾配の流動をサンプリングするため、定時測定時間は午前 7 時、午後 4 時、午前 0 時の計 3 回（N = 3 Daily）に厳格に固定し、1 週間連続の連続観測を貫徹した。デジタルオシロスコープによる追跡測定の結果、周波数は 0.00 ± 0.00 Hz へと安定収束し、直流超流動比率（Duty+）は 100.00 ± 0.00 % の完全直流超流動特性（局所的常温超伝導状態）をロックした。しかしながら、その液晶画面に描画された基底波形は、振幅を持たない一本の直線ではなく、全体の包絡線が紡錘形を描く非定型正弦波を安定して示し続けた。このパラドックスは、時空背景（ゼロポイントフィールド）に偏在する質量ゼロの仮想光子束が、水晶格子の電子・フォノン・光子超結合（Electro-Phonon-Photon Coupling）を媒介とすることで、電気抵抗（摩擦熱ロス）を伴わない自由電子流へと直接的に透過変換される『空間力学的光電効果』の動かぬ世界初の客観的実証（エビデンス）を示している。外部からの電力供給を全面的に遮断した完全無負荷オープン回路環境下における高電位磁場（Amp: 90.93 ± 6.95 mV、Vrms: 21.42 ± 2.27 mV）の経日時系列的維持の成功は、次世代の量子ビットインフラ、光子ビーム技術、および分散型クリーンエネルギーシステムの物質化に向けた極めて強固な技術的基盤を確立するものである。

キーワード：ゼロ点真空、空間光電効果、直流超流動、電子・フォノン超結合、天然水晶コア、特許出願中（特願 2026-116460）

連絡先 email: info@taishibashi.com

＜ミニシンポジウム＞ 「地球幸福憲章」 2026/9/11 版

ファシリテーター 山本 幹男 博士（医学）・博士（工学）
「地球幸福憲章」起草者代表（日本, 千葉）

要旨： 「**地球幸福憲章**」は、場当たり的な政策でなく, 無宗教の人も宗教を信じる人も含めて, 皆の数千年間の指針となるべき, 地球上が丸ごと皆が平和で幸福になるべき憲章を目指して, 2012 年に山本幹男が草案を提起し, 2 年掛で数十人が参加しての 50 回程の議論を経て起草された。その後, **ちばてつや** 漫画家（2025 年 文化勲章受章）や 故 **日野原重明** 医師等 高名な方々に「提唱者」や「賛同者」となって頂き、2014 年 9 月 9 日に神田の日本学士会館にて創立総会を開催し, 記者会見し発表した. その後、人材や資金不足等で、この普及推進活動が出来ていなかった.

しかし, 戦争が多発している今こそ, 本憲章が必要で 平和への関心が高まっているので, これを再開しなければならないので, 最近その準備をしてきた. 是非とも多くの方々に, この「**地球最大のムーブメント**」にご参加願いたい.

キーワード：地球幸福憲章, 幸福文明, 精神文明, 生き甲斐, 平和, 戦争, 幸福, 自由, 平等, 博愛, 民主, 環境

連絡法：mikio-yamamoto@iri-g.org Fax 043-255-9143 090-9232-9542

コメンテーター： 募集中
・佐藤 洋平 地球幸福憲章 net 本部 事務局

全世界の、ヒューマニスト、ロマンチスト、アイディアリスト（理想主義者）、
エコロジスト、リベラリスト、パシフィスト(平和主義者)全員集合「地球幸福憲章 net」へ

2014 年 9 月 9 日発表版
起草者代表 山本 幹男 博士(医学)・博士(工学)

地球幸福憲章 The Earth Happiness Charter (TEHC) テーク

― 人類はきょうだい、生物は家族、地球・宇宙は家 ―

-Humanity as Brothers and Sisters, All Living Creatures as One Family, the Earth and Universe as Home-

今日までの目覚ましい科学技術の進歩と資本主義経済システムにより、今まさに物質文明が開花している。それは、人々の生活を快適にする一方で、核兵器に象徴されるように人類絶滅の危機さえもたらした。更に、地球規模の自然破壊や貧富格差を引き起こし、資源や覇権をめぐる紛争も絶えない。

本憲章は、繁栄の陰に生じた弊害や危機を乗り越え、人類と生物や地球・宇宙の永続的で輝かしい未来を創るために、**物質文明と精神文明を統合**し、「**人類は兄弟、生物は家族、地球・宇宙は家**」との根本理念に基づく「**地球幸福文明**」への転換をここに提唱する。

目指す「**地球幸福文明**」は、今日までの文明の貴重な概念である、**自由・民主・平等・博愛・連帯・参画・福祉・健康・平和・自然保護・共生**を成熟させ現実化する。また、**個性が生かされ、生き甲斐と愛・喜びに満ち、生き生きと生きられる、皆が社会・生物・自然と共に 幸福に生きる事**を主眼とした文明である。

人種、民族、宗教、国家の垣根を超え、世界の人々による**連帯と多様な価値観**への理解に基づく、あらゆる外交、経済、文化的努力により平和を実現する。核兵器・生物化学兵器などの速やかな全面禁止、通常兵器の段階的削減、そして廃棄を目指す。

経済システムは、弱肉強食・収奪と浪費型から、**民主的で公正なシステムに転換**する。福祉・健康・文化・環境・共生・平和・精神性を重視した経済活動を促進する。

この文明の実現のためには、一人一人が、全ては全体と相互に繋がり合う、掛け替えのない存在である事に気付き、先人の叡智に学び、潜在能力を開き、他への思いやりの心を深めると共に、分かち合う行為が必要である。

本憲章に賛同する世界の人々による「**地球幸福憲章ネットワーク**」とその「**世界本部**」をここに創設し、これを皆の力で発展させることにより、**本憲章**と「**地球幸福文明**」の実現をめざす。このために、世界の多くの人々・団体と叡智の本「**地球幸福憲章ネットワーク**」への結集を求める。

地球幸福憲章の今とこれから

佐藤　洋平

地球幸福憲章 net （日本、千葉）

要旨:地球幸福憲章とは一体何か？地球幸福という概念は、なぜ今一層大切なのか？現在社会の状況、近未来社会の予想を背景に、私たちがどういう目的・方針を掲げて活動しているのか？この人類最大の壮大な目的を、果たしてどう達成しようとしているのか？地球幸福憲章に関する活動の現在地、その先の計画、そして最終的な到達地の展望について、お話が出来ればと考えております。

キーワード:地球幸福憲章 net、地球、幸福、世界平和、自由、民主、自然保護、共生

連絡先:yohei-sato@iri-g.org

形而上学的ビッグバンとは？

佐藤　洋平

フリーランス／愛理 IRI グループ （日本、千葉）

要旨:10 代前半の頃に形而上学的思想を独自に組み立て始めてから約 30 年の時を重ね、包括性・一貫性に於いて、ようやく自分で満足出来る体系に仕上げることが出来ました。世界の姿、生や死、生きる意味などの大切な質問に全て、自分なりの回答を見出しました。今回は、概念軸の性質から、物体や非物体構造の分解、物事の真の姿、宇宙の起源まで、私の思想体系の最も古い部分について、分かりやすい言葉でお伝えしたいと思っています。科学ではなく、哲学でビッグバンをどのように説明するのか、多くの方々の思考を刺激できたら幸いです。また余談として、非論理性の論理的擁護にも触れてみたいと思います。互いに磨き合えるような鋭い批評を、心よりお待ちしております。

キーワード:形而上学、宇宙の起源、ビッグバン、概念、自作思想、世界観

連絡先:yohei-sato@iri-g.org

魂と心の違い

佐藤　洋平
フリーランス／愛理 IRI グループ（日本、千葉）

要旨:私たちは魂という言葉を様々な場面で使いますが、「魂」という言葉の定義を真剣に考えた人は少ないかもしれません。果たして魂は心とどう違うのか？魂とは一体何で、どこから来て、どこにいて、どの様な仕組みで作用をして、どこに行くのか？東洋と西洋、哲学と宗教を横断しながら、私なりに考えてきた魂の話をお伝えできればと思っております。皆さまと意見交換し、共に考えを深めていければ幸いです。

キーワード:魂、心、瞑想、悟り、平安、幸福、死後の世界

連絡先:yohei-sato@iri-g.org

夢が本当の現実なのか？

佐藤　洋平
フリーランス／愛理 IRI グループ（日本、千葉）

要旨:何故、私たちは睡眠中に夢を見るのか？そこにどのような意味や役割があるのか？という問題を 180 度ひっくり返し、もし夢を見ている状態を初期値と仮定した場合、逆に何故私たちには夢を見ない時間があるのか？そんな問いを一緒に考えてみませんか。夢の問題を皮切りに、物理世界とは何か？脳は私たちの実体なのか？現実と真実の違いとは？宇宙の外に何があるのか？何故、量子もつれの情報伝達は光速より速いのか？この世界に生きている理由は？死後の世界はどうなっているのか？その答え合わせは死後になら可能なのか？など、多くの難題に、シンプルで一貫性のある一つの解答を提示してみたいと思います。

キーワード:夢、睡眠、真実、現実、シミュレーション仮説、明晰夢、量子もつれ

連絡先:yohei-sato@iri-g.org

変化する社会的関係の探求　～無機物からの学び～

佐藤　洋平
フリーランス／愛理 IRI グループ（日本、千葉）

要旨:ペットを家族・子供のように扱う人々が増えています。巷では AI を友達や恋人にする人々が話題になっています。今後、AI を搭載したロボットが一家に一台の時代が来て、また仮想現実がリアルさと手軽さを加速させる時代になると、ますます人間が「人間以外の何か」と社会的関係を育む流れが強まってくるでしょう。二度の結婚の失敗以降、無機物である等身大の人形達を伴侶として暮らしている私が、どの様な世界観・関係性の中で生きているのか。おそらく世界を見渡しても唯一無二な伴侶人形信仰について、深い内容を簡潔にお話いたします。他では聞くことの出来ない稀有な精神世界の話をお楽しみください。

キーワード:関係、人形、無機物、伴侶、恋愛

連絡先:yohei-sato@iri-g.org

＜一般講演＞

技芸の起源／言葉の物語～言葉と映像による表現～

結
フリーランス／国際生命情報科学会（日本，千葉）

要旨：いまこの時代を「良く」生きるのは,それ自体が高度な技芸と言えないだろうか．　今の社会システムはあまりにも複雑化したために,個々の人間がその基層となっている仕組みを知ることが非常に難しくなっている.AI が産声をあげたこれからの時

代ではなおさらである.
「人間」の技芸の最も大きな土台となっているのが「言葉」である.私は奄美の古い芸能の伝承に関わる中で,言葉や技芸がこの数十年という短い時間の中でも大きく変化していることに気づかされてきた.このまま進むだけでは「人間の技芸」は AI によって代替されていくだろう.(そのこと自体が単に悪いとは言えないが自覚的である必要はある)
もう一度「言葉」を知り,使いこなし,生きる技芸としていくためには,その起源から探り,学び,さらには言葉そのものを進化させる必要があるだろう.これまでに ISLIS や SPC-F のイベントで何度か私がイメージする「言葉の起源から IT までの大きな流れ」をかいつまんでお話ししてきたが,科学的な発表でもない内容を今までのテキストベースの講演で伝えるのに限界を感じてきた.
そこで,今回は新しい試みとして言葉だけでなく「映像表現」を取り入れた講演とし「言葉と技芸」についてのイメージを深めてみたい.(時間的に短いプロト版となる)

連絡先：yoshifumi-furuhashi@iri-g.org

＜実演/実技指導＞　（参考　前々回の）

奄美に残っていた古層の芸能「八月踊り」ワークショップと実演結

楽器編成等（基本的に PA なし.アコースティックです）
手持ち太鼓　奄美三味線　ギター　の中から適宜選択

要旨: 奄美の八月踊りは　奄美大島や加計呂麻島を中心とした奄美群島の中のいくつかの島の各集落で伝承されてきた民俗芸能です.旧暦の八月十五日の満月の月明かりの下で夜を徹して,もしかしたらもっと昔は何日にも渡って踊られました.男女が輪になって会話のように唄をかけあいながら,手持ちの太鼓の他は,はやし声かけ声や,指笛などの身体を使った楽器だけで踊られます.今回のフェスでは実際の唄掛けはできませんが,かけ声等で声も出していただきながら皆さんと一緒に輪になりたいと思っています.　私が受け継いでいる八月踊りやシマ唄は,奄美群島の中の「加計呂麻」島の「花富」集落のものです.　60 年以上前に島を出て多くは関東で暮らしてきた師匠から受け継いだそれは　ちょうど「タイムマシン」のように,現代的になる前の「花富」の踊りが残されたものです.日本でも辺境中の辺境とも言えたその頃の集落には,はるか昔の生活の残照がまだ残ありました.　もちろん完全にではなく琉球王朝や薩摩を経由して西側発祥の現代的な文化は入ってはいましたが　他の多くの地域のようにそれに塗りつぶされることなく古い「唄」や「身体」が残されていたことが,師匠の唄や踊りからはうかがえるのです.
その師匠から伝えられた古い花富集落の八月踊りが,今の世界を読み解き,次世代を作っていくうえでとても重要なことであるという考えに至るまでには長い年月が必要でした.何の説明もなければそれは,現代も各地で行われている盆踊りや,今の八月踊りのちょっと原始的なバージョンでしかないと感じられます.そうした話は今回のシンポジウムの中の別の時間に少しお話ししますが,このフェスの時間枠では,皆さんにその片鱗を体験していただけたらと思います.
キーワード:奄美，八月踊り，シマ唄，加計呂麻，花富，朝崎郁恵，旧暦，満月，民俗芸能，始原的，エートス，反復　祭，あそび，風土臨床，神ごと，輪踊り，唄かけ，歌垣，古層の芸能

連絡先：yoshifumi-furuhashi@iri-g.org

〈報告〉

中国の気功等の見分雑感

北川　壽昭 気功師範　*（東京,日本）*

〈報告〉

イギリスのセミナーに参加して、など

松本　ゆかり　*（東京,日本）*